

## 第4回(仮称)滋賀県産業振興新戦略策定委員会議事録

1. 開催日時 平成22年8月4日(水)13時00分から15時00分まで
2. 開催場所 滋賀県大津合同庁舎 7A会議室
3. 出席委員 委員15名中12名  
川端委員長、伊藤委員、井上委員、大塚委員、小川委員、肥塚委員、  
中本委員、西本委員、花田委員、平山委員、安田委員、吉武委員  
(欠席：尾賀副委員長、阿部委員、西沢委員)
4. 議事内容

### (1) (仮称)滋賀県産業振興新戦略骨子案について

#### 事務局より資料の説明

#### 質疑応答・議論

#### 【委員長】

骨子案と企業ヒアリングの結果について事務局から説明していただいた。早速であるが、これから議論に入りたいと思うので、これからの進め方について確認をさせていただきたい。この骨子案を今日は検討する訳だが、実質的には今日の議論で、問題点については全て出し切っていたらいいと思う。これは事前に一回みなさんへの意見聴取を踏まえて、事務局の方で整理していただいて反映した修正がなされているが、すべての部分が反映されている訳ではない。大方の部分、大きな柱の部分についてはかなり修正がされている。限られた時間であるので、効率よく、しかしながら全て最後までやり遂げたいと思うので、委員のみなさま方もその辺りを踏まえていただいて、手短かに要領よく良い議論をしたいと思う。進め方については一問一答で出来る限り、もう最終局面に近づいているので、事務局とのやりとりをしながら議論を深めていきたい、直接的に深めていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

まず、4章立てになっているので、おそらく色々な意見は後半の部分に多いかと思うが、とりあえず大きなところである、戦略の趣旨や本県を取り巻く社会情勢、将来像や本県の特徴等、1章、2章の5ページまでについて最初にご意見をいただきたいと思うが、いかがか。

#### 【委員】

1点あり、新戦略の説明を聞いて一つ一つ読むと、いいことが書いてある。それに反論する気は毛頭ないが、この新戦略の位置付けというのは、県と民間企業等・学会・各種団体が共通の戦略として取り組むべき戦略として示されるのか、あるいは県の行政が取り組むべき戦略として示されているのかどちらか。

#### 【事務局】

1ページを見ていただくと、「2.新戦略の性格」で、まず「取り組むべき産業振興施策を総合的に推進する」とあり、(4)のところの「県、民間企業、各種団体などを含めた各主体が取り組みを進める共通の戦略とする」ということで、県に限らず滋賀県として、こういった形で産業

振興を図りたい、という形での整理をさせていただいているものである。

【委員】

ということは、ここに書かれている戦略自体を全て県行政として、事業やプロジェクトに落とし込むという意味合いではないということか。

【事務局】

行政としても限界はあり、行政が直接関わるよりは、例えば民間や大学が取り組んだ方がはるかに効率的なこともある。そういったところでは、それぞれの強みを活かして進めていくということから、行政が一律的に一元的に行うという趣旨ではない。

【委員】

ということは、この新戦略が出ると、この中から取捨選択をして、県行政が取り組む事業あるいはプロジェクトをどう落とし込むかというプロセスがその間にあるということだと思う。これが非常に大事であって、この絵は非常に良いことが描かれている。これに何ら反論する気はないが、これでもって県行政はどういった取り組みをするのか、これが私の最大の興味というか一番気になる点である。

【事務局】

産業振興においては、行政が非常に大きな力を持ってやるということよりも、民間の企業の方々、さらにはそれを支えるNPOの方々、色々な方々が自立的にやっていただくというのが主体となっていくのではないかと思う。行政は、あくまでそれを支えるべき立場にあると考えており、一緒になって滋賀県を盛り上げていこうということで、こういう形で共管的なものとして位置づけられている。ただ、やはり滋賀県としてみなさんがバラバラの方向を向いて産業振興をしていくと、これはなかなか良いものできないのではないかとということで、滋賀県における産業振興の方向性としては、こういう方向性でみなさんと一緒に一丸となってやっていこうということで、行政の方でみなさんと一緒になって考えて提案し、みなさんと滋賀県経済を盛り上げていきたいというような形になっている。そのことから、県としてもできる限りこういった戦略に取り組みされたものをプロジェクトとして、県行政としても色々な事業に反映させていくという形になるうかと考える。

【委員】

おっしゃるように財政に限界はある。ただし、第1回目に「平成22年度主要事業概要」というものをもらっているが、色々な事業が展開されている。予算額も1ページをめくっていくと、215億くらいの予算がついた色々な事業が書かれている。その次の区分けでは24億、相当な財政がすぎ込まれた事業が書かれているが、この新戦略からこの具体的な事業にどう落とし込んでいくのかというのが本当の戦略だと思う。この新戦略は理想を描いた絵であって、これをどこへ落とし込むかが新戦略だと思う。その辺の位置付けが聞いていて違和感を覚えた。

#### 【委員】

「支援策」というのが新戦略8ページの最後にあるが、これを県としてやっていくので、これに基づいて、戦術というか具体的にどうことをやっていくのかという絵が書かれているという解釈で良いのではないか。

#### 【事務局】

私どもの方では、新戦略という仮称ではあるが現在作っている。これを滋賀県の産業振興の方向性というか羅針盤として決めて、これからの4年間を重点的にやっていきたいというものである。これからこれに沿った形で施策の構築または進行管理をしながら、この趣旨にそった形で今後、事業展開を図っていくという最初のスタートの重要な指針という考え方で捉え方になるかと思う。

#### 【委員】

今、議論されていることに関わって、これまでの産業振興新指針というのが1ページのところにあるように、重点分野が3KBIとなっている。環境・健康福祉・観光・バイオ・ITが重点分野だという話で、今回はそこからするといくつか落ちているものがある。そういう意味では、重点分野を絞り込んでいることになっている。それが良いのか悪いのかはこの審議会で議論したらいいと思うが、今おっしゃった具体的に県が施策としてどういう風にしていくというのは、これは骨子案であるから、この次に議論すれば良いと思う。骨子の基本の柱がこれでよいという話なら、そこが出発点というか、それに附随して出てくるという話になるということなので、今まで5つのものが重点分野だという話から、今回は立て方が最初のところは4つということで、立て方が少し変わっている。そうすると結局、お金の付き方が変わってくるという話になる。お金の付き方が変わってくるということの、柱の最初の出発点が骨子案になってしまう。それで良いのか。こういう話として、やはり議論がされる必要があるというふうに思っている。

もう1つは認識として、例えばこの1ページのところで、「その結果、環境やバイオのクラスター形成が促進される」と書いてあるが、現実には環境のクラスターは形成されつつあると言ってもいいと思うが、率直に言うと滋賀県でバイオのクラスターが形成されつつあるというのは少し言い過ぎである、私の認識としては、クラスター論からすると少し無理があると思う。それは認識の問題であるから、あえて形成されつつあると言ってもいいが、現実から出発するとそこまで言うのは言い過ぎかなというのがもう1点。どちらにしても、今まで5つ重点分野だというふうにされてきたものから、そうでないものが今回打ち出されているということが本当に良いのかというのが問われるのかなと思う。

#### 【委員長】

先程の疑問は、この仮称のタイトルが戦略というふうになっているところにもあるのだろうと思うが、つまり、これは先程事務局からも説明があったように「指針」である。指針レベルのものである。県がどちらを向いて施策をやろうとするのかという方向性を本来示すべきものである。その改定版を作ろうということであるから、やはりタイトルのどこかに「指針」という言葉があった方が、どの次元でのものなのかという位置付けがよく分かったのか

なと思う。戦略というのは、どちらを向いて先ず何を目指してやるということを打ち上げて、その後どういう道筋を辿るかというのがたぶん戦略となってくる。だから、委員がおっしゃったように、これをブレークダウンしていくところに戦略の本質が見つかるというご指摘はまさにそのとおりである。そういう意味では、これはあくまで指針の改定で、指針レベルである。少し前段階の部分に重点が置かれている。そういうふうな位置付けで考えていただければと思う。3章のところで「新戦略」と書いてあるのは、その方向性に向かって具体的に戦略的な柱があるということで、その後たぶん施策に落とし込む時の本当の戦略なり戦術なり、そういうものがたぶん出て来るのだらうと思う。そういう意味では、いきなり戦略というタイトルが付いてしまっているので、少し大々的なところがあるかも分からない。その辺りは、また事務局の方でもう一度最終案を作る時に議論していただければと思う。このような形でよいか。

#### 【委員】

骨子案ということでは大変よくできていると思うが、委員長がおっしゃったように戦略と指針がこんがらがらるような感じがする。最後の10ページの「戦略の目標」という言葉だが、「戦略ごとに、その内容に応じた目標をそれぞれ設定する」ということだが、言ってみたらここに書いてあるのは目標であって戦略ではないと思う。おっしゃるように指針であって、戦略というのは色々な目標に対してアプローチが色々あると思う。そのアプローチを考えると、やはり戦略だと思う。この目標に近づくために何をしていくかということが戦略であると思うので、もしできるのであれば最後のところが指針ごとに、あるいは目標ごとに内容に応じた戦略をそれぞれ設定するということが、これを各部局に下ろした時に具体的に考えやすいのではないかという気がする。

#### 【事務局】

一応、その戦略と指針という言葉については皆さんが抱くイメージが個々によって違うと思っており、我々は前回作ったものは指針ということで作って、それよりももう少し絞り込みをしようという思いがあったものなので戦略という形にさせていただいた。であるから、先程委員がおっしゃったように3KBIよりも、例えばもっと産業分野を絞って作っていったというイメージだったのだが、確かに今出来上がりのベースを見てみると、新戦略を作ろうと思った時よりも、若干新指針の方にも触れているのかと思う。タイトルについては、今後少し考えていきたいというふうに思っている。

#### 【委員長】

色々と庁内で議論していただいて、調整をしていただく。分かりやすい形でお願いしたい。

#### 【事務局】

違った言葉があればいいと思っていたので、またアイデアがあれば是非よろしくお願いしたい。

## 【委員】

1章と2章の中で少し内容について提案したいが、まず「新戦略の性格」の中で3番目に取り上げられている「国の産業振興政策を踏まえたものにする」ということだが、現状において国家としてほとんど今は機能していない状態で、まともな政策が出て来ないわけで、しかもこの4年間あまり変わらないのではないかと。ましてや地域分権一括法案が出ているように、これからは地域の時代だという形になっているので、むしろこれは必ずしも踏まえてもいいのかと思う。入れていただきたいのは、この新戦略の性格として県民の将来に夢が与えられ、なおかつこれに関しては縦割行政の弊害と言われるようなものを取り除いて、県全体の組織が一体となって横断的に取り組めるようなものであるという形のプロジェクトが必要であればやっていくという決意を入れていただきたい。というのは、次のページの現状認識が若干違うように思う。「本県を取り巻く経済・社会情勢」の「世界の動向」に3つ挙げておられるのだが、全て1つの括りである。いわゆる今までのアメリカ一国主義の世界の構造から、まさに中国をはじめとする新興国へのパラダイムシフトが起こってもダイバーシティの社会が実現するという、まさにそれを個別に書いているだけである。

もう一つもっと大きいのは、この世界の動向の中では日本では人口が減るが、世界では人口爆発がどんどん起きていくという世界人口というものが、世界的な食糧危機、今中国や韓国がアフリカの農地を買い漁っているように、日本に関して全くその戦略はないわけで、その部分が大きな動向なのではないかと思う。環境の問題もあるが、やはり私は食糧問題ということでそれをむしろ挙げていただきたいと思う。国内の動向についても、これもいくつか同じものを挙げておられるような気がして、やはり日本として問題なのは、デフレと財政赤字と社会保障である。それはこういった少子高齢化などから来る社会保障の毎年1兆2,000億円がどんどん自然増加していく中において財政がもたない、国は頼りにならないという状況の中で、県としてどうしていくのかというのを現状認識とする。その現状を踏まえた上で取り組んだということを示す必要があるのではないかと思う。

## 【事務局】

委員がおっしゃるように、我々は国のために産業施策をやっているわけではないので、当然県民の方に向かって我々は産業施策をやっているものであるから、この新戦略の性格のところの「国の産業振興政策を踏まえたものとする」というのが書き過ぎというのであれば、ここで議論いただいて我々は結構である。ただ現実問題としては、国の中に県があるので、ここには書かなかったとしても、現実には一定程度国の施策を踏まえてやっていくことになるのはご理解いただきたい。委員がおっしゃるように、趣旨としては県民に向かって施策をやっているの、どちらでもご議論いただければと思う。

## 【委員】

私もここにわざわざ書いたのが、それ以上のことはしないよと言っているようなマイナスイメージにどうしても捉えてしまうので、書くとなれば「国の産業振興施策も踏まえて、さらにもっと滋賀県ならではのものを目指す」みたいに少し作文的な手法ではあるが、このような書きの方がイメージとしても良いのではないかという気がした。それも最低限抑えて、さらに行くという形である。

【委員長】

では、その辺りを少し踏まえていただきながら、少し表現を考えていただこうと思う。他のところで、2章までのところで何かあればお願いしたいが、いかがか。

【委員】

2ページで前から気になっていたのが、長期的な姿の2030年の滋賀県の基本構想のことがここに書かれている。今日の新聞で「基本構想の骨子が出た」という話があり、それはそれで踏まえる必要があるというのが1点理解している。この「経済・産業の将来の姿」というのが、指針なのか新戦略なのかは別にしても産業の分野の話である。その時に私が一貫して違和感があるのが、2030年の頃の滋賀県の産業の姿を描くことが有り得るのかという基本的な問題で、滋賀県全体の成長戦略の未来をこういうあり方が良いという話を2030年に描くのは構わないと思う。産業レベルの話をしている時に、2030年の姿を滋賀県というフィールドで描くということが、私は一員として言うと、そんなことはあり得るはずがないだろうと思っている。私は、もちろん戦略は専門であるが産業論の専門でもあるから、産業論の立場からしても今そんなことを論じているということ自身が、率直に言うとそんなことを言ったら笑われてしまう。本当にここで産業戦略を論じるところで、2030年などということを書き込むのであろうか。それは産業レベルでの話であるので、県全体の話はまた別である。産業レベルで本当に10年後どう描くというのは、それは目標であるから四苦八苦し書いていたらよいかもかもしれない。しかし2030年の姿で産業の話をしている時に、本当にそんなことを書くのであろうか。私はもう、それはあり得ないと委員として申し上げておく。

【事務局】

委員がおっしゃるように、2030年の産業の姿がどうなっているのかということ、今の段階で言い当てることは全く不可能だと思う。そうは言っても我々は戦略を作る際に、どちらの方向を向いて行けばよいのかということで、ある程度の姿を思い描いておかななくてはならなかったのかと思い、ここに書き込ませていただいたような趣旨である。

【委員】

これは言葉で言うとビジョンなので、2020年のビジョンを描くのか、2030年のビジョンを描くのかといった時に、2030年のビジョンを描くということがあり得るのであろうか。例えば2020年だったら、この間中国の大使が言っていたが、GDPで日本の倍になるであろうという現実が2020年ですらある。2030年のビジョンの産業レベルで言った方がいいなと思うことを、ビジョンとして描くことが出来るのか。私は、描くということ自体がちょっと信じられない。

【委員長】

基本構想の部分から取ってきておられるわけで、委員のおっしゃることは私もごもつともな話であると思う。ここは基本構想に掲げる姿ということで、これは書いてしまっているのもう動かせない現状である。

【委員】

基本構想に書かれているという話として処理されたら別に構わないと思っている。

【委員長】

内容的には委員のおっしゃるとおりである。

【委員】

今のは基本構想に書いてあるから仕方ないというような感じがする。委員が言われているのは、具体的にするために書いてあるのだろうけれども、例えば今までモノの文化から精神文化の方へ行くとか、もう一つ上位概念の産業イメージが本来ではないかという意見ではないかと思う。それが、では上手く書けるのかというふうに抽象的になっていくので、難しいのかなと思う。

【委員】

暮らし方も生き方も含めて、県全体がどういう方向に向かっていくのかということは絶対に議論されるべきであると思うが、それは産業指針だろうが戦略であろうが、産業の話をしている時に、それはないだろうというのが言いたかった。繰り返しになって申し訳ない。

【委員長】

議事録の方にもきちんと留めていただくということで意思表示をしていただければと思う。おそらく何回目のこの議論でも将来目指すべき方向性を見据えて初めて、戦略なり何なりが描けるのではないかというご意見も出ている。それはそれで、また一つのごもったもな意見であったと思う。そういったものも反映するような形で、とりあえず基本構想にある部分で出してもらえたのかという気がする。その中身については、ご意見あるかと思うが、また少し最終のところ調整をしていただくというところをお願いしたいと思う。

【委員】

3ページの「委員から出された意見」の書き方だが、これがそのまま残ると思ってなかった。基本構想と委員から出された意見というのは並列であって、何かあまりにこう並列で書いてもらうのはどうかと思う。

【事務局】

確かにおっしゃるとおり、「基本構想に掲げる…」ということで基本構想に描いているものであるということである。ただそれだけではなく、こういったものを描くということで追加されているので分かりやすくしているが、確かにこのまま委員から出された意見ということでこれから進むのはおかしい話である。ただ、基本構想には入っていないので、できるだけこういった表現は避けて、線は引くようなものの追加するような格好で、委員からの意見という言葉は取らせていただきたいと思う。

【委員長】

次回の原案ということで、もう少し適切な表現でよろしくお願ひしたい。他にいかがか。

【委員】

6ページの「戦略を推進するに当たっての基本的な取組」ということで、今回IT化支援というのをに入れていただいた。さらに10個並んでいるのはバラバラな感じがする。色々なレベルがあるし、支援があつたりなかったり、それから金融支援を県としてどうしていくのかというようなことがあるので、少し挙げていくにしても揃える必要があるのかと思う。

【事務局】

確かにおっしゃられたように、基本的な取組については項目立てには羅列をさせていただいたところが正直なところある。少し組み合わせというか構成を考えて、ここは肉付けをする時に考えていきたいと思う。金融支援については、私どもも制度融資等をさせていただいている関係で、そういったことが中小企業への支援として考えて入れさせていただいたところである。また内容については、それぞれ精査して肉付けさせていただきたいと思う。

【委員】

第1章の項目立てについて少し違和感を覚えているところがある。具体的には「4.本県産業の現状」というのがこの場所にあるのが少し違和感を覚えている。これは現状がどうであつてというのが、背景の一番前段にあるのが自然であるかなと私は個人的に思っているのだが、いかがか。現状がこうであつて、これまで県がこういう政策を取つてきて、これからこうしていく必要があるという流れで背景の中に入っていた方が読みやすいかと思った。一意見なので、ご議論いただければと思う。

【事務局】

第1章の柱立てというのは、これも事務局の案であるが、1.2.3.が今回新戦略を作るにあつてのバックグラウンド、それから性格というものを規定して、4.から本県の産業はどうなっているか、5.では色々議論があるが将来はこういう姿を目指そうという、そういう柱立てであつた。どのような柱立てが良いかは、ご議論いただければと思う。

【委員長】

前半部分というのは、1.2.3.は、策定の背景なり趣旨なり期間ということである。4.からが、本県の事情という環境の変化と将来の姿というような構成になっている。私は、違和感はなかったのだが、他の委員の皆様はいかがか。また、この辺については一度整理をする段階で最終案を出していく段階で、もう一度細かい部分を含めて検討していただいたらと思う。

【委員】

5ページで目指すべき方向性として「今後さらに伸ばすべき分野」、あるいは「分野横断的に取り組むべき事項」という中で、6月18日に国の新成長戦略というのが公表された中

で、3K + アジアを特に重要視してという話だと思うが、それに沿った中でのこういうところもあるかと思う。 の「にぎわい創出・観光」という部分の中で、最後の行に「おもてなしの心に満ちた観光を展開する必要がある」とあるが、理想的あるいは抽象的な部分であり、そういう表現はこれで良いのか。もっと日本の観光地に中国人がプライベートジェットで来ているとか、こういう世の中がもっと進んでいくような中で取り組みができないかという部分である。

それから、「今後さらに伸ばすべき分野」で、先程も意見があったが、第1回目にも水と食糧というような話があったように思う。食糧安保という部分の中での第一次産業の農業の位置付けというのを表現に入れなくても良いのかどうか気になった。

#### 【事務局】

まず1点目の部分で、「にぎわい創出・観光」のところは、「おもてなしの心に満ちた観光」という表現は若干情緒的であるかと自省の念を込めているが、実際のところは委員もご案内のとおり、我々も中国をターゲットにして観光ツアーであるとか色々な取り組みをさせていただいている。表現ぶりについては、ご指摘を踏まえてまた考えさせていただきたいと思う。

それから、もう1つ水と食糧安保という話であるが、水については環境の分野のところには入れさせていただいている、7ページの第3章になるが、新戦略の戦略領域の のところに「水ビジネスへの取組」ということで第3章に入れているが、委員がおっしゃるのは第2章の方にも入れるということか。

#### 【委員】

水の方は良いのだが、食糧の方である。

#### 【事務局】

これは、第1回から色々なご意見があって、なかなか商工観光労働部で策定する新戦略の中では食糧安保であるとか、第一次産業である農業を取り上げるのは厳しいのではないかというふうに考えている。ただそうは言っても、連携であるとかがポイントになるというご指摘をいただいているので、いわゆる農商工連携ということで我々も取り組みを進めていけばよいのではないかというふうに考えている。具体的には、これも第3章になってしまうが、9ページの「連携強化戦略」というところで「産業分類にとらわれない企業間連携の推進」の最初に農商工連携をはじめということで、色々な連携をさせていただきたいと思っている。

#### 【委員長】

またこの辺り、目指すべき方向性というのは第3章の後半の議論に入るが、それと一体化されている部分があるので、またその辺りは後半のところでも具体的に話をさせていただければと思う。

#### 【委員】

5ページの「目指すべき方向性」だが、モノづくり産業について、滋賀県の場合はいわゆる加工組立が強いということで、技術力などを補う特許を持つ形があるということであるが、

やはりモノづくりというのは将来アジアシフトがどんどん進むと思うが、そういう中で研究開発型の企業を育てるとか、そういう企業を誘致するとかいう部分を入れてもよいのではないかと思う。おそらくモノづくりだけでは生き残るといことは難しいと思う。

**【委員長】**

モノづくりの中身にも色々とおもうが。

**【委員】**

4番目の「にぎわい創出・観光」で、その町々があまり個性的になってしまうと横の繋がりがなくなってしまう。やはり地域と地域の連携を持って、1つ滞在型の観光に結びつけていくことで、先程滞在型の観光は良い面も悪い面もあるということがあったが、滋賀県としては滋賀県のイメージが非常に低い点から、ここに泊まって色々な滋賀県の良さを見ていただくと初めて、滋賀県のイメージが上がるということになるのではないかと思う。そういう意味では、例えば長浜へ行って終わりではなくて、長浜と彦根であるとか色々な地域連携をした広域的な観光につながる方がいいのではないかと思う。

**【事務局】**

1点目の研究開発については言われたとおりであると思うので、単なるモノづくりの工場だけでなく、高付加価値化のための研究開発型というのも、そこに盛り込むべきかについては検討させていただきたい。

2点目の観光については、滞在型観光ではなく日帰りを進めるべきというのは企業ヒアリングを通して得た結果であり、県として日帰りだけでいいというわけではなく、滞在型観光は非常に重要だと思っている。新戦略には盛り込んでいきたいと思っている。

**【委員長】**

目指すべき方向性については第3章にもあるが、その辺りも含めてご意見をいただきたい。事前の意見聴取では、皆さんから個別の具体的な施策に関するご意見等も頂戴したが、その細かい部分については必ずしも全て盛り込まれているわけではないので、その辺りのことも含めてご意見をいただきたいと思う。

**【委員】**

8ページの「グローバル化対応戦略」について、「国内市場の開拓」という言葉の使い方がまずいと思う。「海外からの観光客誘致」というような書き方はどうか。また、「海外からの誘客につながる魅力ある観光を展開することにより、国内での市場開拓を図る」となっているが、もっと具体的に、観光客の受入体制を強化する、あるいは外国人の雇用、外国人と話せる人材の育成、3カ国語、4カ国語の表示などがある。高速道路のサービスエリアの管理は、NEXCO中日本が一番大きなエリアでしているが、外国人を誘致するということで、次期計画では3カ国語表示をすることが条件になっている。中国人を従業員として雇うなど高速道路の顧客誘致に力を入れている。そういう意味では、ここをもう少し強調して取り上げてもいいのではないかと思う。2020年には2,500万人の外国人がやってくるということで、他府県の資源のないところは一生懸命取

り組んでいる。

【事務局】

「国内市場の開拓」という言葉については検討させていただく。ここを強調して書くことについては、骨子案を基に文章を書いて原案を作成して、次回ご提案するので、委員のおっしゃるように、ここを強調してほしいということであれば書いていく。ただ、具体の施策、事業を書くということになると事業集になってしまう。

【委員】

そういうことではない。具体的なことは言ったが、いわゆる受入体制を強化する、支援するなどの程度は書いてはどうかということである。

【事務局】

どのような形で強化できるか、強調していけるか、案として示していきたいと思う。

【委員長】

原案づくりの段階でご参考いただければと思う。

【委員】

今回は前回までと違って絞り込んで、しかも個々のところとクロスするところを分けられ、我々も整理しやすく良かったと思う。7ページのところの、私が毎回意見を述べているが、「モノづくり領域」のところの、「モノづくりを中心として、あるいはモノづくりをベースに拡大した新産業形態の形成」と言っていたように、第一次から第三次までの垣根を越えた、あるいは1つの機械にソフト部分を加えパッケージ化したような製品、モノづくりというような形で、滋賀県独自の産業づくりをしていくのが滋賀県の特徴になるのではないかと毎回言っているが、もう少し文言として、そのような含みのあるものができればいいと思う。

2点目は9ページの「連携強化戦略」で、縦割りの支障があって、京都は各部署で連携して一つの施策をされている。取組の姿勢として、現状では難しく外されるかもわからないが、だんだん薄れていっている。政策の策定についても予算についても、滋賀県としての取り組む姿勢を庁内の縦割りをなくした状態で取り組むとすれば、効率的、効果的かと思うが、そういったことは難しいので外しているのか。現実に難しいと思うが、行政改革で5年程前から意見が出ていたが、なかなか今までできていない。どこの府県でも戦略等で連携という言葉は出てくるが、滋賀県独自ということで、そういうものを乗り越えた産業づくりの取り組む形についても、滋賀県の独自性が出ればいいと思う。独自の指針の取り組み方というのを、意気込みとして何とかしていただけないか。文言にするのは難しいか。

【事務局】

文言にすることは難しくないが、委員がおっしゃるのは、組織として融合した組織を作るべきということか。

#### 【委員】

先程も農業について述べることは難しいということであったが、現実には今の状態では難しいだろう。しかし第一次産業もひとつの産業の分野と思えば、一緒に取り組むような姿勢ですることによって解決できることもたくさんあるのではないかと思うので、何とか一つでもそのような姿勢で取り組む意気込みがいただければ安心できるし、ありがたい。他の庁内の担当の方に質問に伺った時、我々は政策を策定することが仕事であって、政策を進めるのは我々の仕事ではないとはっきりおっしゃった方がいた。そうであっていいのか。全国の市町村では作ってなおかつ自分たちも動いておられることを考えると、その視点を変えていただいて、一緒にやるという意気込みを見せていただけるとありがたい。それができる、できないは別として思った。

#### 【事務局】

組織をどうするという事は、商工観光労働部単独の判断ではなく、究極的には知事が決めることであり、それをここに書く、書かないは上の判断がある。委員のおっしゃるように、基本的には垣根があって農業とは連携できないと言っているわけではなく、農商工連携を進めていきたいと思っている。総合的に言えば、部局間連携を進めていくというのは結構であり、ここに「部局間連携をさらに進めていく」と書くということであれば検討できる。

#### 【委員】

たとえそれが不可能であっても、そういう姿勢でやっていただければ、取り組んでいただければ効果が上がると思う。だんだんと離れていかずをお願いしたい。第一次産業を含めて、色々な産業を引っ張っていくのはこちらの課だと思うので、そういった意味でもお願いしたい。

#### 【委員長】

最近よく言われるワンストップサービスがあり、これは雇用と関連して言われているが、役所間、関連機関、部局間で柔軟にそれぞれのテーマ毎に連携し、使い勝手のいい制度運営をすることは一つの課題であり、その程度であれば書ける部分もたくさんあるのではないかと思うので、検討いただきたい。

#### 【委員】

8ページの「にぎわい創出・観光領域」について、先程の話で部局間の連携を密にすることは大切だと思う。観光は滞在客を増やすことだけが観光ではないと思っている。観光客が来られることによって、滋賀県がずっと発信できていくようにしていくことが究極の観光の目的だと思う。そうすると、「琵琶湖をはじめとした自然や歴史・文化はもとより、滋賀にあるものをフルに活用しつつ、」とあるが、「滋賀にあるもの」というのは、観光は第三次産業だが、第一次産業、第二次産業、農業、漁業、林業や、モノづくり、工場も産業観光ということで見学ということにすれば、観光の分野としてやっていけると思う。具体的に例えば、彦根がひこにゃんブームでたくさんの方が来られるようになり、彦根仏壇というのは今まであまり知られていなかったと思うが、彦根に来られた方が彦根は仏壇の町だということが分かって、各地に取材に行くと時々彦根仏壇について聞くようになった。米原の丹生のあたりで木彫をやってらっしゃる方が、欄間を昔からやっているということが分かってきたりする。自動車会社の工場見学をすることで竜王町の

名前がインプットされた方もいるだろうし、次の自動車はそこで作っていたものを買おうということにもなる。観光は産業すべてを吸い上げてくるものなので、それを考えると、部局間の連携がとても大事で、それがひとつで分かる戦略の本部が必要かと思う。成文化するのは難しいかと思うが、そういうことを腹案として書いていなくても実は持っているということがあれば、これから議論のしようがあると思う。これだけ立てておいて、後から何とかやっていってとなると、せっかく議論の場というものが生きてこないような気がする。

#### 【委員長】

最近、産業そのものを観光資源にするということが流行っているが、の「滋賀にあるもの」とあるが、滋賀にある産業もフルに活用した観光のあり方がもう少し模索されてもいいかと思う。産業と観光の接点あまり表れていないので、意見も踏まえて検討していただければと思う。

#### 【委員】

2点あり、今ご指摘があった関連で言うと、8ページの観光のところでは歴女ブームで色々やっていると思う。文化という点で言うと、「けいおん！」というアニメの影響で豊郷に人が来る。知事も参加している夏フェスもある。滋賀県出身のミュージシャンも多い。単にブームに乗ったものでなく、滋賀にあった魅力探しに乗って観光を押ししていくことをふんわりと書いていただきPRしてほしい。

もう1点目は、7ページの「環境領域」が大変気になる。ここに2つだけ出ており、2つだけではないと思うが、2つの出し方がこれでいいのかという気がする。滋賀の財産といった時に、全体のところでも自然ということが一番に出ている。自然環境価値を活かすような、例えば生態系のサービスであるとか、第一次産業はどこにいったという感じもする。そこを膨らませていただきたい。

#### 【事務局】

観光については、歴女や「けいおん！」というアニメがあり、また今年も9月に本県出身者である西川貴教氏の4万人が参加する夏フェスもあり、どのような形で書けるか検討したい。

「環境領域」については、新エネルギー、水以外の環境・自然についてもどのような書き方ができるか検討したい。

#### 【委員】

3点程あり、1つは企業の項目で、1ページ目の「自律性」という使い方は良いと思うが、「自律的な企業」という書き方はいかがか。大企業に頼らない企業という意味で使われていると思うが、「自律性」という言葉は、本来わがままを押さえるという意味なので、別の言い方を考えていただきたい。

2点目は「人材育成戦略」であるが、可能であれば学校教育を入れていただきたい。1955年以来、日本は大量規格生産を基本に、協調性あって、辛抱強く、個性がなく、創造性がない人材をたくさん育成して同じことをやらせてもらえば良かった。これからはそうでなくて、個性や独創性のある教育、創造性のある人材が求められるのに全く対応できていないのが現状である。その辺りを教育の現場に活かして、皆さんが前向きになれるような育て方が重要である。そのよう

な教育を追求していくことにより、4年後は無理かもしれないが、長期的に取り組むことにより、滋賀は質の高い人材がいるという企業の認識につながると思う。

3点目は、PCDAというのは、CからAに行くところが一番肝心であり、しっかりと自己評価または第三者による評価ということだが、むしろ第三者を含めた自己評価によって行う追加対策などを第三者の知恵を借りるという方法にしないと、結局PDCだけで終わってしまう。次の対応策のアクションにつながらないという気がしている。

#### 【事務局】

1点目の「自律」の書き方については、直感的には委員のおっしゃるとおりかと思うが、再度確認したい。2点目の学校教育については、なかなか大所高所からご意見を頂いたが、どのように盛り込んでいくべきか検討したい。3点目の評価については、委員がおっしゃるような形が基本かと思っている。

#### 【委員】

他の方が農業の分野のことを言っているのと同じである。他の部局が担当とはいえ、溝をなくしていかないと、日本全体が世界の情勢に追いついていけない。現状が大きく変わっている以上、過去の延長線上の発想ではこれからは意味がない。皆さんには意気込みを示していただきたい。

#### 【事務局】

他部局の話だから書けないということではない。委員から受けた印象は、職業教育とかそういうものではなく、学校教育そのものをどうにかしなくてはならないという話だったのかなということである。

#### 【委員】

大元がそうであれば、いくら産業人になって教育しようがベースがそこにあるから。根本である部分が変わらないと、キャリア教育や職業教育を行っても意味がない。現状起きているのは、日本で創業するのではなく、香港などの方が創業しやすいということで、日本という国に見切りをつけてベンチャーを立ち上げている人が少なくないのが事実である。そうなってしまうと、日本はどうしようもなくなってしまうので、やはりそれは、滋賀県に住んでいる影響力の及ぼせる範囲内という意味で私は申し上げている。産業としてというよりは、気付いたところでやればいいのかという発想である。

#### 【委員】

書けるかどうか分からないけれども、学校教育そのものは難しいかと思うが、中等教育におけるキャリア教育・職業教育という視点から迫ってみるとかであれば書けるのではないかと思う。

#### 【事務局】

このような貴重な意見が出たことを教育委員会にお伝えして、相談させていただきたい。

#### 【委員長】

ここでそういう意見を出していただくことは重要であるし、またないとアクションは起こせないで、庁内でまた今のご意見を踏まえて是非つないでもらえればと思う。

本日はこういう色々な意見を出していただく原始的なスタイルであるので、今度は原案にまた意見をいただきたいと思う。

#### 【委員】

7ページの環境領域だが、CO<sub>2</sub>削減という側面と生物多様性という部分の中で、今年10月にも名古屋でCOP10が開かれると思うが、10年先20年先を見据えると、生物多様性と経済産業振興のあり方について触れていただけたらと思う。飛躍しすぎであると言うことであれば、そういう意見があったとしていただきたい。

#### 【事務局】

生物多様性についてはちょっと研究させていただきたい。どこまで書けるかどうか、ご相談させていただきたい。

#### 【委員】

「医療・健康領域」のところで、最初の2行は産業振興と括られていて良いと思うが、の方は産業振興戦略という枠組みではあるけれども、ここは色々と他に使う事業のイメージになっていて、いわゆる住民サービスをするというようになっているが、それがどう産業振興につながるのかというところの突込みが難しいところ。菅総理も、健康福祉や介護は事業につながるとおっしゃっているが、具体的にどうであるのかはおっしゃっていない。滋賀県で住民サービスをする中で産業振興するには、この分野では何をするのか、指針であれば良いと思うが、戦略になってくると具体的にもう少し突込んで書かないといけない。これだと持ち出しばかりになっているイメージがある。生態系の話も、環境としては大事であるが、ビジネスとどう結びつくのかが見えないと書けないのかなと思う。

#### 【事務局】

「医療・健康領域」の具体的なお話をさせていただくと、医工連携事業というのを滋賀でやっている。医療の新しい技術を開発するために、お医者さんと県内の大学と企業が連携して取り組んでいる。医療にとっては発展していく源になるし、企業にとっては商売の範囲が広がる。イメージ的なものを、もっとそういうものを押し進めるということかと思う。

#### 【委員】

産業振興というのは、インプットよりもアウトプットの大きなイメージがあるし、多くしないとけない。インプットして、アウトプットが少ないというのは困る。

#### 【委員】

「医療・健康領域」がサービスビジネスとして踏み込めるのかがポイントになると思う。今日の新聞では、県の基本計画では、医療・介護・子育ての仕事の場を創設すると書いてあるが、まさにサービスビジネスの分野だと思う。どういう部門が担うのかなど、どういうスタンスで書か

れるのかははっきりした方が良いと思う。個人的には踏み込んだ方が良いと思うが、それはお任せする。

2点目は、8ページの「2. 支援戦略」と書いてあるのが気になっていて、5ページに「分野横断的に取り組むべき事項」とあるので、ここは「分野横断的支援戦略」というふうに変えられたらよいかと思う。これもまた検討していただきたい。

#### 【委員】

モノづくりについてであるが、単なる組立現場作業から、知的レベルの高いモノづくりもあり、そのために必要な人材教育もあると思う。ビジネスマッチングで国内のことばかり触れられているが、中小企業が自立していくには、海外の企業にも優れた技術や部品を提供していく必要がある。そういう視点も、中小企業にとっては発展の道筋が見えるという意味で入れるべきではないかと思った。

#### 【委員長】

モノづくりというのは実は多義性というか難しいところがあり、「モノづくりとは何ですか」と中国人留学生に聞かれ、答えるのに困った。なかなか中国語や英語では表現できないと思う。儲けを度外視したこだわりや、社会貢献をにらんだ職人魂のようなものなど、そこに様々な意味が含まれていると思う。そこが日本の特有性につながっているのだらうと思う。これがなかなか中国語や英語には置き換えられないのだと思う。その辺りを、どこまで明示的に表現できるのかという問題もあるだらうと思う。またご検討いただければと思う。

#### (2) 次回会議について

次回開催日程および議題について